

漁業経済 学会短信

No. 43
84. 5

目次

沿海地区漁協の性格と漁家経営	加瀬和俊	①
沿岸漁家と地区漁協をめぐる現代的問題	倉田 亨	②
第三一回漁業経済学会大会のお知らせ		
全国理事会等の日程・学会誌の編集・発行状況について		

第三一回大会案内特集

第三一回大会シンポジウム

「現代の漁協の性格と機能」

沿海地区漁協の性格と漁家経営

加瀬和俊

(一) 本報告の課題は、現段階における沿海地区漁協の性格と漁家経営に対するその機能を検討することである。検討にさいしては、①現代資本主義における協同組合の一般的性格と沿海地区漁協の特質の対比、②漁家の階層性と漁協の性格・機能との関連、について留意する。

(二) 現代資本主義における各種の協同組合は、事業運営を通じて利鞘を持続的に確保しなければならぬという意味で、その経営体的性格を強めてきた。それは、①専門職員層

の名目賃金の持続的上昇、②組合事業のための借入金元利返済、③資金調達力・産地間競争力の強化のための、組合の対外信用力の増大、などの必要性に促された変化であった。この背景には、協同組合事業の拡大・高度化に対応できる専門職員層の開放的労働市場の下での確保、協同組合事業のための投資規模の拡大（およびそれを可能ならしめた融資制度の発展）、組合の資金調達力、販売力の組合員の経営に与える意義の高まり、といった事情がある。そしてこれらの事業の根拠としては、現代資本主義化にともなう諸変化、とりわけ、①インフレ政策→名目賃金の持続的上昇、②産業政策の社会政策的強化→低位

生産性経営体の滞留→価格問題・市場問題の重大化→組合の商業機能の強化、③インフレ政策→借入金依存の経営規模拡張、などが指摘できる。かくて、「組合の主人公は組合員である」とする「原点」論の批判にもかかわらず、協同組合の経営体的性格も、職員賃金水準の組合員所得水準からの乖離も不可避免的に進行する。

漁協においてもこのような性格は共通している。とくに漁協の場合には、組合員の経済力にくらべて漁協事業への投資規模がはるかに大きいので、法制的にも、員外利用制限や専属利用契約などの面で経営体的性格が他の協同組合よりも大幅に容認されている。もっとも、沿海地区漁協の少なからぬ部分は、このような経営体的要請に対応できないがゆえに協同組合の内実を持ち得ず、漁業権管理を中心とした同業組合的性格にとどまっている。両者の漁協を比較すれば、組合員の経営を支える協同組合機能を充実させる方向が、結果

的に漁協の経営体的性格を不可逆的に強化させるという関係を確認できよう。

(三) 現段階における協同組合の運営原理に關連して、農協・漁協の組織原則に注目すると、組合員の権利における同等性が顕著である。これは、制度的には憲法および各協同組合根拠法によって、経済基盤としては労働市場の広範な展開と組合員の生計能力の上昇によって、地域内における半ば人格的な支配関係が解消され、戦前的な名望家主導の組合運営が不可能となり、大衆民主主義型の組合運営の原理が要請されるに至ったことを意味している。この段階において、組合員の個別的利害を組合構成員の共通利害へと編成していく原理は何か？ その最も単純・簡明な理念は平等主義であろう。権利において平等な組合員は、組合から平等に経済的利益を受け、平等に負担を負うという原理である（養殖施設の平等配分はその典型）。しかし、組合員相互に大きな階層差が存在する以上、この平等主義は文字通りには買けない。その場合には、組合事業に対して依存度の高い構成員の利害を重視して組合の運営方針を決定せざるをえない（兼業漁家が多くとも組合運営は専業漁家本位に行うといった状態）。階層差追認主義とでも称すべきこの原理は、広義に見れば平等主義の一形態ではあるが、組合運営

をめぐる平等主義とは対立する面を持ち、その結果、組合の運営方針は一義的に定められなくなる。そのような局面において作用する今一つの原理が、経営体的運営原理であり、組合自体の経営にとってもっとも利益になる運営方針を選択するという原理である。そしてその際には、組合事業の経済的内容についての実務力を有する専門職員層の判断が重視されざるをえない。

このような協同組合の運営原理が漁協において具体的にどう適用されるのかについて、報告に際して整理してみたい。

(四) 漁協の経済事業と漁家経営との関連については、販売事業と信用事業を念頭において整理を試みる。そして、①沿海地区漁協の二類型（漁家型漁協、中小資本、漁家混在型漁協）のおのおのにおける、漁協の経済事業の主要な対象階層の性格規定、②專業的・企業の漁家の個別的経営展開と漁協経済事業の発展との相互規定関係とその根拠、③水産政策との関連における漁協の二面性、すなわち、一方における政策の下請機関性、他方における政策との対立関係の実体とその根拠、などの論点を検討する。

沿岸漁家と地区漁協を めぐる現代的問題

倉田 亨

共通論題「現代の漁協の性格と機能」の中での標記課題の位置づけは、沿岸漁家―漁協構成員の今日の諸変化との関わりという側面に分析視角を置くことにあるだろう。つまり、漁協構成員の質的・量的変化が、漁協の性格や機能にどのような変化を与えているのか、与えていないのかという点がまず問題になる。それと併せて、まず踏まえて置かねばならないのは、「現代の…」の現代をどのように認識するかであろう。従って、標記課題も敢えて「現代の問題」としているものであり、さらに言えば、現代に現在置かれている漁協の将来（Sollen）にとっての問題という意味で「現代の問題」としているのである。沿岸漁家の今日の様々の変化そのものが、現代を體現しているものではない。しかし、現代を全て體現しているものではない、だからこそ敢えて現代をどのように認識するかを問う必要性を伴うのである。

ところで、漁協構成員の質的・量的変化については、既に昭和五三年度「漁業白書」に「漁村は、…青年層の流出、漁業活動の停滞、漁業協同組合等の漁村管理機能の低下等から

弱体化しつつある」という表現で、漁協機能にまで影響する程の変化を見せていることを指摘している。それにも拘らず、逆に、昭和五七年度「漁業白書」では、「近年、漁業経営の環境はますます厳しさを加えつつあり、漁村における指導力、経済力の中核体としての漁業協同組合の役割はますます重要なものとなってきている」と述べている。この一見矛盾した「白書」の指摘は、現代の漁業を取り巻く諸環境の中では漁協の果たすべき役割りは増しつつあるにも拘らず、漁協は弱体化しつつあるとしての指摘と読めば整合性を持ちうる。こうした指摘と受けとれる状況をどのように克服するか、つまり漁協の強化を如何にして図るか、果たすべきとされる役割を如何にすれば果たせるか、今後の漁協のあるべき姿を模索・確定することが望まれている訳である。

ここでは、沿岸漁家との関わりという側面に限定して、今日の漁協の強化、果たすべき役割を如何にして果たすかを論じる。その場合、いわずもがな、現代を、端的には都市化・工業化・情報化の高度に進んだ社会（ならし時代）と踏えたい。また、既に「漁村構造と漁協運動（活動）」の問題点——今後の漁協のあり方を求めて——」（西日本漁業経済論集第二巻・一九八一年三月刊）で指摘した論点と

提言を踏えて、展開する。この論文での筆者の重視していた論点は、今日の漁協に求められているのは「地縁集団原理の退化に伴う新しい（広域）集団原理→多様化進歩の中の統一（合）」であるとの指摘であった。また、そうした集団原理として社縁原理に基づいた組織再編が先決であり、それが現代の職分社会への適応を果たし、現代への対応の可能性を拓く道だと提言した。今回は、この論点・提言をベースに、果たすべき役割（機能）にまで議論を展開したい。以上予告に替えたい。

第三一回 漁業経済学会

大会のお知らせ

一、会場

近畿大学 本館三階第二会議室
〒577 東大阪市小若江三の四の一
電話 〇六（七二一）二三三二
（内線四三八 倉田・榎）

道順および大学構内案内

国鉄環状線鶴橋駅で近鉄大阪線に乗換え
高安・国分庁の各駅停車に乗り、長瀬駅下車、徒歩約一〇分地図参照のこと。

二、日程

〇六月二日（土）午前九時三〇分
一般報告
〇六月三日（日）午前九時三〇分

シンポジウム

「現代の漁協の性格と機能」

〇総会 六月二日 午後一時～二時

三、配布資料

当日の配付資料は、各自七〇部ほど御用意下さい。

四、大会運営

現地大会事務局および大会の準備、編集担当常任理事を中心にして、その他理事各位の協力のもとに行います。

五、懇親会

六月二日 午後六時より大学構内で行う予定です。（会場は当日案内します。）

会費 三、〇〇〇円

六、大会参加費

二、〇〇〇円（レジメ代を含む）

七、プログラム予定

〇シンポジウム・テーマ「現代の漁協の性格と機能」

「沿海地区漁協の性格と漁家経営」

加瀬 和俊

「沿岸漁家と地区漁協をめぐる現代の問題」

倉田 亨

「現代漁協の現状と問題点」

「北海道日本海沿岸漁協を事例として」

池田 均

司会 鈴木 旭、米田一二三

〇一般報告

四月十七日現在申込みのあった一般報告
演題は次のとおりです。

「水産物産地流通における漁協販売事業
の機能とその限界」

古林 英一
「琵琶湖漁業の展開過程」

伊藤 康宏
「中小資本漁業分析試論」

広吉 勝治
「漁協の地域協同組合化について」

島 秀典
「北米（既開発地域）への日本の資本進
出とその形態についての検討」

堀口 健治
「戦後水産物流通の諸特徴」

酒井 亮介
「大阪湾漁業の史的調査について」

酒井 亮介、太田 雅士
「最近における世界漁業生産の動向」

山本 忠
「漁協論の現段階的課題」

増田 洋
「漁民的漁場利用と漁協の機能」

宮崎 隆志
八、宿泊施設の案内

○ 灘波・上六地区（会場まで約四〇分）

「なにわ会館」（公立学校共済）

TEL 〇六（七七二）一四四一

「ホテル南海」（ビジネスホテル）

TEL 〇六（六四九）一五二一

○ 大阪駅・新大阪駅周辺（会場まで約六〇
分）

「大阪ガーデンパレス」（私立学校共済）

TEL 〇六（三九六）六二一一

「新阪急ホテル」

TEL 〇六（三七二）五一〇一

「ホテル阪神」

TEL 〇六（三四四）一六六一

○ 京橋・天満橋地区（会場まで約五〇分）

「大阪共済会館」（国家公務員共済）

TEL 〇六（九四一）六二四三

「ホテル京阪」

TEL 〇六（九四五）〇三二一

○ 天王寺地区（会場まで約五〇分）

「以和貴荘」（地方公務員共済）

TEL 〇六（六二二）一七二五

「大阪郵便貯金会館」

TEL 〇六（七七二）七五〇一

「天王寺都ホテル」

TEL 〇六（七七九）一五〇一

各自で予約して下さい。

◎ 全国理事会等の日程

○ 全国理事会

六月一日（金）午後五時～

近畿大学 本館四階第四会議室

○ シンポジウム報告者検討会

六月一日（金）午後二時～

近畿大学 水産経済実習室

○ 在京理事会

五月八日 午後六時～

東京水産大学

◎ 新入会員の紹介（敬称略）

田中 二良（水産庁養殖研究所）

竹村 武人（三重県漁連）

古林 英一（京都大学大学院）

寺井 稔（北海道渡島支庁）

◎ 学会誌の編集・発行状況について

（学会誌編集担当理事より）

学会誌の発行予定は、次のようなスケジ
ュールで現在作業を鋭意進めています。

二八卷三号 五月初旬に刊行

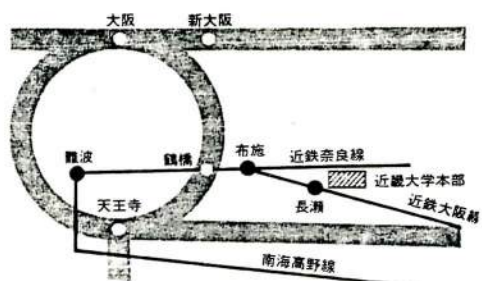
二八卷四号 五月下旬に刊行

◎ 大会準備担当理事より

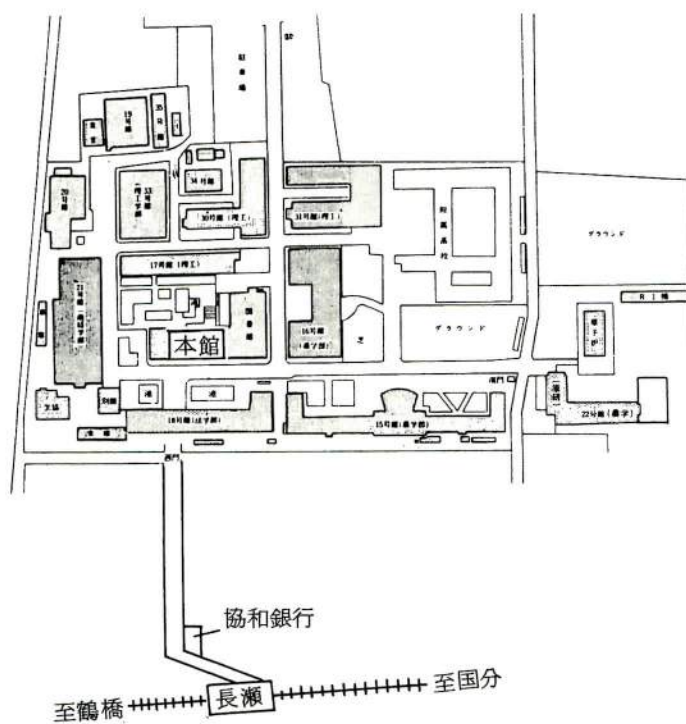
大会のシンポジウム報告は、秋山博一氏
にもお願いしていましたが、病気のため
取止めざるをえませんでした。

会場案内図

＜大学所在地図＞



＜大学構内図＞



大会会場

本館3階第2会議室

理事会会場

本館 4 階第 4 会議室